



晴天の心

立教189年3月号
大阪府富田林市寿町4-9-10
URL:www.tomiishi.net
TEL:0721-23-3466 090-5243-4669



「長崎ランタンフェスティバル」

月次祭 3月19日(木) 午前11時～
婦人会例会 3月9日(月) 午前10時～



冬の夜空を極彩色に染める長崎ランタンフェスティバル。市内中心部が約15,000個のランタン(中国提灯)と、各会場のさまざまなオブジェの幻想的な光で彩られます。もともとは中国の旧正月を祝う春節祭として始まったものが年々広がり、今では長崎の冬の風物詩として知られています。【開催日程】2026年2月6日(金)～2月23日(月・祝)

※今回から2月の第1金曜日から17日間に、日程を固定化することとなりました。

また、2026年は最終日の翌日が祝日のため、1日延長し、18日間となります。

まちを彩るランタンは眼鏡橋周辺が黄色、中華街では可愛らしいピンク・・・と会場によりさまざまな限定カラーがあるので、お気に入りスポットを探してみてください。中華街周辺では角煮まんじゅうや中華スイーツなどもご用意しています。

毎年多くの観光客が県内外から訪れ、長崎の冬を代表する大人気のお祭りです。

今年は、あいにくの雨でしたが、新地中華街で二胡の演奏と龍踊りを堪能し、待ち時間に中華がゆなどを美味しくいただきました。

1月25日に道明寺天満宮で行われた鸞換え祭りに初めて参加しました。♪換えましょ～換えましょ～♪と声を掛け合いながら、全く知らない人とお互いが笑顔で袋に入った鸞の人形を交換していきます。約1時間くらいでしょうか、どれくらいの人と交換したのか判らない笑顔をかわしながら境内を回りました。

鸞替え(うそかえ)とは、主に菅原道真を祭神とする神社において行われる特殊神事で

ある。鶯（ウソ）が嘘（うそ）に通じることから、前年にあった災厄・凶事などを嘘とし、本年は吉となることを祈念して行われる。（ウィキペディアより）

私はカメラ片手に撮影しながら参加したのですが、本当に交わす人どなたも素晴らしい笑顔。これほどたくさんの人の笑顔にであったのはいつぶりだろう。

太鼓の音で終了。紙袋を開いて木彫りの鶯の裏を見る。そこに色が着いていると当たり。

景品がもらえる。神の前には欲はない、最初にいただいた鶯がたとえ当たりだったとしても、多くの人にとを渡って回り回ってだれかの手の中に。

笑顔で換えましょととても楽しんでいる姿は、陽気遊山そのもの。

ランタンフェスティバルでも、雨の中での演奏、演技を見ている人たちや、ランタンや光の人形を眺めている人にしかめつらをした人はいない。不思議と笑顔です。

どんなに苦しいときでも、歯を食いしばって耐えているときでも、ちょっと一息ついて、しかめ面をほどいて笑顔で、大きな声で笑い飛ばしましょう。

笑う門には福来たるです。そして改めて、深く思案して心を定めて、笑顔を忘れずに仕切る根性。きっと、思いが深く強ければ、成ってきます。

2つの祭りを通して、笑顔のパワーを感じました。



今日の
おやのことば

「細路は通りよい。往還は通り難くい」

細路は通りよい。往還は通り難くい。
細路は細い、身心に掛けて通るから、
通りよいから、往還と言う。往還の道は
十分の道であるから油断して細路となる。



おさしづ 明治22年3月3日

「おさしづ」には、印象的な対比表現がいくつも出てきます。中でも「細道」と「往還」という表現は、その代表的なものだと言えるでしょう。教会公認などの歴史上の出来事から個人の身上に至るまで、さまざまな場面に使われています。

対比表現は、対照法などとも呼ばれ、対句となる二つの言葉を際立たせる言語表現の技法です。しかし、どのような対比関係が成立するかは、現実生活における対比ではなく、実際に使用されている言語表現の文脈の中で決められます。例えば、「わたしは彼女に《恋》していたが、彼女はわたしを《愛》していた」というように、文脈によっては、意味のよく似た言葉を対比関係に置くこともできるでしょう。

さらに言えば、こうした対比表現を通して、背景にある「ことばの世界」を思い浮かべることが不可能ではないということです。

「細路は通りよい。往還は通り難くい」

このような「おさしづ」の対比表現を心の中で繰り返すとき、お言葉の背景に広がる親神様の思召の世界に、少しふれ

られたような気がしてきます。

われわれの日常のことばの世界では、往来のできる広い道の方が通りやすい。しかし、信仰の世界では、通りやすい道こそが通りにくい細道になる。

身上や事情の御守護を頂いて、毎日を気楽に暮らしていると、すぐにそのときの真剣な思いや祈りを忘れてしまう。こんな自分に気が付くたびに、このお言葉を思い出します。こうした反省の繰り返しが、「おやのことば」を拝読する意味なのかもしれません。（岡）

...

明治二十二年三月三日（陰曆二月二日） 林つま四十六才（河内国喜連村講元）
さあ／＼一つ／＼尋ねる事情、尋ねる席、いかなる席だん／＼席、一日の日を以て席、席に順序鮮やかな理を諭そ。長らえて一つ心、年限を越し、これではならんという日も通り、一時分かり来る処、皆一つ心。だん／＼通り来たる処、よう聞き分けるなら、成程という理がある。世界という、今までの事を忘れんよう順序の道を通る。早く一つ道という。席順序一つ理、成程一日の日生涯の理を諭し置く。よう聞き分け。

難し事は言わん。言わん言えんの理を聞き分け。
成る成らん、しっかり聞き分け。人間身の内神のかしもの・かりもの、心一つ我が理。幾重の理もある。日々ある。日々受け取る中たゞ一つという自由自在何処にあるとは思ふな。めんめん精神にある。よう聞き分け。中の自由自在常々処一つ誠と言う。

一つ細路がある。細路は通りよい。往還は通り難い。細路は細い、身心に掛けて通るから、通りよいから、往還と言う。往還の道は十分の道であるから油断して細路となる。

この理を諭そ。 国々所一つ所治まる理を、女一つ理を以て一つ理を悟れ／＼。いつ／＼まで聞き取るよう。

さづけ／＼、あしきはらいたすけたまへ天理王命、三遍唱え三遍三遍三々々の理を渡そ。さあ受け取れ。

...

このおさしづにおよさまの教えの根本がすべて込められています。
何度も読み返しここに刻んでおくことにします。

1月26日教祖140年祭に参拝してきました

天理中河詰所駐車場に8時過ぎに到着。遠方の方たちは前日から宿泊されている方も多数おられますが、もったいないことに1時間少して無事到着。時間は十分あるのですが、まずは神殿へ向かいます。境内地もまだ人はまばら。まずは北礼拝場で、参拝おつとめして、教祖殿で参拝。年祭のお礼と懺悔を行い祖霊殿で参拝。中庭から東回廊をくぐって東礼拝場前を通って南礼拝場へ向かっていると、教会の旗を立てて大勢の人が神殿に向かっての姿を見る。今回の参拝は昇殿してあのキラキラの渦の中へいきたと思ひもう一度北礼拝場に昇殿。柱にもたれるように座りました。ここ数年、正座するのがつらく崩して座るのもなかなか出来ないのです。去年の昇殿参拝の時は折りたたみの楽座を使ったのですがこの日は持ってこなかったのです。このとき9時少し前、北礼拝場はほぼ半分が埋まりつつありました。あれよあれよという間に参拝場は人で埋まっていきます。

私の前に座った人は韓国からの帰参者らしく翻訳放送の機器を片手に待っておられました。

献饌が終わり祭儀式が始まり、祭文奏上。そして、かぐら手踊りが行われました。このかぐら手踊りの間、参拝場ではほとんどの人がこの年祭に向けての歩みを伝えようと一緒に唱和していました。本当に気持ちの良い空間でありました。

神楽つとめが終わったあと、北礼拝場を後にしていつもの神殿西側の手水場斜め後ろに移動。いつものように参拝しました。



北礼拝場から出たとき、中庭を埋め尽くした人の多さに感動。各参拝場前にもパイプ椅子が並べられていましたがすべて埋まっていました。トイレを探してお茶所へ向かいましたが、お茶所前の芝生広場にもパイプ椅子が用意されてほぼいっぱいの人でした。

後日の新聞報道で約12万人の参拝者があったと聞きそれだけ多くの人が参拝に来られたのだと、境内が昔と比べて広くなったので立錫の余地なしとまではなっていませんでしたが、多くの人の思いがこもった年祭だったと感じました。

祭典終了後真柱さまのお言葉がありました。まだまだこれから助けることはいくらでもある。一つの通過点を過ぎたの過ぎないことを胸に納めて勇んでつとめに励んでほしいと。また新しい塚に向かう心を決めた日となりました。



動画サイト



道友社ビデオ
教祖140年祭 執行



奈良テレビ NEWS
天理教教会本部では
26日、天理教
教祖百四十年祭が
執り行われました。

鉄道ファンも大集結していたんですね。撮り鉄たちが平端駅や天理駅に大集合していた様子が伝わってきます。そんな動画をどうぞ。天理教教祖140年祭で運転された近鉄の天理臨を撮る。



道友社は教団としての公式報道、奈良テレビは一般的なマスコミとしての報道、そして、最後は鉄道ファンという全く次元違う角度からの教祖年祭。

それぞれの伝える観点と熱量の違いがよくわかると思います。

実のところ、鉄道網が明治時代に整備されて行くに当たって大都市間を結び流通や人の動きをスムーズにするという部分があったのですが、その人の動きに寺社仏閣と天皇陵への参詣というものがあったのです。この寺社仏閣への参詣というところを踏まえないと、線路がなぜここで曲がって遠回りしてのいるのかが、理解できないと思います。

近鉄南大阪線などはそれが顕著だともいえます。阿部野橋は天王寺へと、松原から藤井寺へと曲がっていくところは、天皇陵墓が多数あります。それに参詣するための駅が多数ありましたが今はなくなってしまっています。人を運ぶ目的が今は都会への通勤ですが、作られた当初は、陵墓や寺社仏閣への参詣だったことがよくわかる路線だと思っています。

ものの見方を変える、昔の人の暮らしの中における移動とは何だったのか？

デジタルでは導き出せない人の心の中にあったもの。信心、信仰。

地元の鉄道路線を見直してみると、今の社会に失われたものは何なのかに気づかされると思います。



銀河食堂の夜 Vol 1 第12回まさしんぐワールドコンサートライブ
さだまさし 一人芝居

謎めいたマスターが旨い酒を出す、四つ木銀座にある風変わりな飲み屋「銀河食堂」。そこで常連客が語るの、ささやかな人生を懸命に生きた無器用な人たちの、不思議で切ない物語。謎のマスターと不思議な酒場。「銀河食堂」5年前に我が町から忽然と消え失せた、あの銀河食堂の常連客の証言のもとに「大人たちの学舎」銀河食堂の魅力に迫る。